

織物業の歴史



京都府
Kyoto Prefectural Government



TANGO GEAR
丹後機械金属業振興推進チーム

織物業のはじまり

弥生時代に大陸から稲作とともに織物技術が伝来したと考えられており、奈良時代には現在の京丹後市弥栄町鳥取で生産された絹織物が朝廷へ納められており、平安時代には和泉式部が丹後の糸に関する歌を詠んでいること等から、公家や武家から重宝される高品質な絹織物を生産できるレベルに達していた。

丹後ちりめんの誕生

江戸時代には、明から堺、西陣へ伝わった「ちりめん」製法を峰山の絹屋佐平治（きぬやさへいじ）と、加悦谷の手米屋小右衛門（てごめやかえもん）、山本屋佐兵衛（やまもとやさへえ）、木綿屋六右衛門（もめんやろくえもん）が習得し地域に広めたことから、生地に細かい凸凹状の「シボ」があり、しなやかな風合いで発色性に富む「丹後ちりめん」が誕生。その後、第二次世界大戦後の高度成長期に最盛期を迎えた。



絹屋佐平治が西陣の技術習得
するため断食祈願した
禅定寺（京丹後市峰山町）

絹屋佐平治が禅定寺に奉納し
たとされるちりめん（現存）



機械金属業の歴史



京都府
Kyoto Prefectural Government



TANGO GEAR
丹後機械金属業振興推進チーム

ルーツ1：丹後ちりめん

「ちりめん」の織機やその修理のため機械金属業も栄え、発展の下地を作った。
ただし、現在は織物関係にルーツをもつ機械金属メーカーは非常に少なく、現在の機械金属業と直接的な関係は薄い。

ルーツ2：富士星計算器製作所

機械式計算器等を生産していた企業。第2次世界大戦の戦火から逃れるために大阪から峰山に工場疎開し、丹後の機械金属業へ大きな影響を与えた。ここから独立した社員が、今日の丹後の機械金属業を牽引する（株）日進製作所、（株）峰山鉄工所を設立した。

ルーツ3：地域一体となったものづくり

富士星計算器製作所から独立した錦織米市氏が設立した（株）日進製作所は、当初はマシン部品専門メーカーだったが、オートバイ部品から自動車部品、工作機械へ生産分野を広げた。丹後には同社から独立し現在も協力関係にある企業も多く、切削加工や鍛造・鋳造・熱処理等の技術が集積し、少量多品種な特殊加工にも柔軟に対応できるという強みが生まれた。

また、丹後機械工業協同組合が材料を一括仕入れ・供給するため小規模企業でも低コストでの仕事が可能で、各企業は設備投資や技術研鑽にリソースを集中させ、高難度の製造が可能となった。

- ① 織物業は遅くとも平安時代から盛んであり、江戸時代にちりめん製法が伝わると、高度経済成長期に最盛期を迎えた
- ② 機械金属業はちりめんの織機やその修理のため盛んになり、その後富士星計算器製作所が峰山に移転してきたことから、丹後地域の機械金属業を牽引していく優れた技術を持つ企業が生まれ、集積が進んだ
- ③ 織物業は機械金属業の発展の下地を作った

参考文献

- 京丹後市史本文編 図節京丹後市の歴史～日本の「ものづくりのふるさと」京丹後市～（2012）
- 北京都 丹後ふるさと検定テキストブック「丹後新風土記」（2007）
- 丹後機械工業協同組合「歴史を重ねて70年 そして30年先を見つめて」（2019）
- 丹後機械工業協同組合（<https://tango-tc.jp/>）
- 丹後織物工業組合（<https://tanko.or.jp/tangochirimen/history/>）
- 京丹後市知的資産経営報告書〔産業活性化編〕（2008）
（https://www.city.kyotango.lg.jp/material/files/group/30/h2005_chitekishisanhokokusho.pdf）
- もうひとつの京都メディアライブラリー（<https://media.kyototourism.org/ja/>）
- 京丹後市観光公社（<https://www.kyotango.gr.jp/>）
- 海の京都DMO（<https://www.uminokyoto.jp/>）